



国立大学附置研究所・センター会議 第3部会シンポジウム
「多様性」をどのように生きるか
地域の姿を複眼的に考えるシンポジウムを開催

東京外国語大学（東京都府中市、学長：春名展生）アジア・アフリカ言語文化研究所ならびに国立大学附置研究所・センター会議 第3部会（会長：近藤信彰 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長）は、2025 年 10 月 4 日（土）に、シンポジウム『「多様性」をどのように生きるか——複眼的に考える地域の姿』を開催いたしますのでお知らせいたします。

◆開催趣旨

「多文化共生」や「多様性の包摂」は、長らく日本社会において推進すべき価値とされてきました。政府や自治体、企業、そして大学においても、これらの理念を掲げた取り組みが広く展開されています。しかし近年、欧米諸国における反移民感情の高まりや、国内における人口減少・社会的分断の進行により、「公平性」や「包摂」の理念そのものが揺らぎつつあります。

こうした状況の中で、私たちは「多様性」をどのように理解し、どのように生きていくべきなのでしょう。本シンポジウムでは、言語・文化・政治・社会の多様性をめぐる課題を、国内外の地域をフィールドとする研究者が複眼的に捉えます。そして多様な人々からなる社会がどのような課題を抱えているのか、私たちがそれにいかに向かい合うべきなのかを論じます。

※国立大学附置研究所・センター会議とは

国立大学附置研究所・センター会議^{*1}は、日本全国の国立大学に設置された研究所・センターの代表者が集まり、学術研究の推進と社会への貢献を目的として連携・協議を行う枠組みです。今回のシンポジウムは、同会議の第3部会（人文社会系）^{*2}による企画であり、現代社会が直面する「多様性」の課題に対して、学術的知見をもとに深い議論を展開する場となります。

^{*1} 国立大学附置研究所・センター会議 <http://shochou-kaigi.org/>

^{*2} 第3部会研究所・研究センター一覧 <http://shochou-kaigi.org/section/center3/>

◆開催概要

日時 2025 年 10 月 4 日（土）13:30～16:30

会場 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 大会議室 / オンライン（Zoom）
（東京都府中市朝日町 3-11-1）

その他 参加費 無料、事前申込制（10 月 3 日（金）正午まで）

主催 国立大学附置研究所・センター会議 第3部会

共催 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

◆プログラム

司会 黒木英充（東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 教授）

1. 開会挨拶 中山俊秀（東京外国語大学 副学長）

2. 趣旨説明 黒木英充（東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 教授）

<次ページへ続く>

<本件に関するお問い合わせ> 東京外国語大学 広報・社会連携課
TEL : 042-330-5151 FAX : 042-330-5140 E-mail : koho@tufs.ac.jp



<続き>

3. 報告①

品川 大輔（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授）

「多言語大陸アフリカの語られ方—『普遍的価値』としての言語多様性をめぐるバイアスと現実」

4. 報告②

中溝 和弥（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授）

「多様性とインド民主主義—『世界最大の民主主義国』の試練」

5. 報告③

永吉希久子（東京大学 社会科学研究所 教授）

「日本において共生は可能か—外国人受け入れをめぐる世論と『寛容』の限界」

6. 総合討論 ディスカッション：高倉浩樹（東北大学東北アジア研究センター センター長／教授）

7. 閉会挨拶 近藤信彰（東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 所長）

◆講演者等プロフィール

品川大輔（しながわ だいすけ）

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授。専門はバントゥ諸語を対象とした記述言語学。キリマンジャロ周辺で話される未記述言語の文法記述を研究のベースにしつつ、バントゥ諸語全体を射程に入れた言語類型論的研究を国際的な研究ネットワークと連携しながら進めています。「木を見て、いつか森も見たいな」と思ってここまで来ましたが、やっぱり個々の木々が見せる個別性・多様性との遭遇こそが言語研究のもっともエキサイティングな部分だと思っています。



主著 Shinagawa, Daisuke, and Yuko Abe. (eds.) *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*, Tokyo: ILCAA (2019); Shinagawa, Daisuke and Nico Nassenstein (eds.) *Swahili Forum 26 - Special issue on variation in Swahili*, Leipzig: Universitaät Leipzig (2019); "Rwa (E621A), Uru (E622D), and Mkuu (E623C): Less described varieties of Kilimanjaro Bantu (Chaga) languages," In Marten, Lutz et al. (eds.) *The Oxford Guide to the Bantu Languages*. Oxford: Oxford University Press (2025) など。

中溝和弥（なかみぞ かずや）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授。専門は政治学、インド政治研究。これまで民主主義は貧困と暴力を解決できるか、というテーマの下、インドで長年にわたりフィールド・ワークを展開してきました。近年は、インドで影響力を強化しているヒンドゥー至上主義について、研究を進めています。



主著 中溝和弥『インド 暴力と民主主義—党優位支配の崩壊とアイデンティティの政治』東京大学出版会 2012、中溝和弥・佐橋亮編『世界の岐路をよみとく基礎概念—比較政治学と国際政治学への誘い』岩波書店 2024、Nakamizo, Kazuya (2024), 'From Silent to Authoritarian Revolution Modi, Hindu Rashtra and the Paradox of Indian Democracy', *The Journal of Indian and Asian Studies*, vol 5, no.2, online

<次ページへ続く>

永吉希久子（ながよし きくこ）



高倉浩樹 (たかくら ひろき)



Dr. Y. Nakamura is a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a light-colored striped shirt. He is smiling slightly and looking towards the camera. The background is a textured, light-colored wall.

◆シンポジウム ポスター

「多文化共生」や「多様性の包摂」は、日本の政府、地方自治体や企業において実現すべき価値とされてきました。日本でもこれら言葉を冠した学内組織が多数活動しています。

ところが、近年の欧米における反移民感情の高まりは国内・国際政治の風景を変えつつあり、日本でもその動きがあらわになってきました。「公平性を確立して多様な人々を包摂すること」の価値が揺らぎつつあります。人口減少が予想以上の速さで進むなか、私たちは「多様性」をどのようにとらえて、自らのもとに生きてゆくべきなのでしょう。

本シンポジウムは、この喫緊の課題に対してグローバルな視点から議論します。

国立大学附置研究所・センター会議
令和7年度 第3部会シンポジウム

会場 ハイブリッド開催 **参加費** 無料

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所 大会室/Zoom
URL: 〒183-8528 東京都中野区目黒 3-1-11
定参加には事前申し込みが必要です
下記のQRコードもしくはURLより登録申し込みください
【申込期限】2025年10月3日(金)正午まで

オンラインでの参加をご希望の方はこちらへ
https://aia2025.zoom.us/j/856124262025
https://www.youtube.com/watch?v=CC26WpYUo64
Society A766A

会場にて参加をご希望の方はこちらへ
https://docs.google.com/forms/d/1FAgKUC36G9dUcZPT18R4E6A/viewform



プログラム

司会 黒木亮克 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授)

1. 開会挨拶
中山俊秀 (東京外国語大学 副学長)
2. 総括挨拶
黒木亮克
3. 報告①
品川大輔 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授)
多言語大陸アフリカの語らわ方ー「普遍的価値」としての言語多様性をめぐるバイアスと現実
4. 報告②
中澤和彰 (京都市大学アジア・アフリカ地域研究研究所 教授)
多様性とインド民主主義ー「世界最大の民主主義国」の試練
5. 報告③
永吉寿久子 (東京大学社会科学研究所 准教授)
日本において共生は可能かー外国人受け入れをめぐる世論と「寛容」の限界
6. 総合討論
ディスカッション
高倉浩樹 (東京大学東アジア研究センター センター長)
7. 閉会挨拶
近藤信彰 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 所長)

お問い合わせ先
東京外国語大学総務部企画研究協力課共同研究系係
メール: kenkyu-zenkoku@tufs.ac.jp

複眼的に考える地域の姿

**2025年
10月4日(土)
13:30—16:30**



主催: 東京外国語大学附置研究所・センター会議 第3部会 主催: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

